

平成30年度

学校教育の重点

— 未来を拓く人と文化の創造 —



神石高原町教育委員会

平成30年度神石高原町学校教育の目標と重点施策

－ 未来を拓く人と文化の創造を願う「神石高原町教育」を目指して －

● 教育振興計画の基本コンセプト

- 1 「神石高原町」にとっての新しい「町づくり」への「未来」を託す教育
 - ・子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくり
 - ・少子高齢社会への対応
 - ・安全で快適な環境における子育て
- 2 新しい町づくりを担う人材の育成
 - ・まちを支え、まちに生きる人材の育成
 - ・住みやすい地域づくりから住みよい地域づくりへ
 - ・地域の子どもは地域で育てる環境づくり
- 3 新しい町にふさわしい文化の創造
 - ・地域に根づく伝統、文化の尊重と国際理解教育の推進
 - ・新しい文化の創造

● 学校教育の目標

- 1 子どもたちの創造性と郷土愛を育む。
- 2 変化する社会環境に柔軟に対応できる子どもたちを育成する。

● 重点施策

- 1 確かな学力の定着・向上を図るため、学習指導及び読書活動等の充実・推進を図る。
- 2 豊かな心を育てるため、道徳教育及び生徒指導等の充実・推進を図る。
- 3 たくましく生きるための体を育てるため、体育・健康・安全に関する指導の充実・推進を図る。
- 4 障害のある児童生徒一人一人の能力や可能性を最大限に伸ばすため、特別支援教育の充実・推進を図る。
- 5 地域に信頼される学校づくりのため、自律的学校経営の構築、教職員の指導力向上及び校種間連携を図る。

神石高原町学校教育目標

神石高原町学校教育の目的	未来を拓く人と文化の創造
神石高原町教育の目標	創造力・郷土愛・変化への対応力の育成
めざす人材	将来、神石高原町に貢献できる人材の育成
めざす学校像	地域を通して世界と未来を観通すHYBRID校
めざす児童・生徒像	神石高原町の自然・歴史・文化を知り、地域活動に参加する児童・生徒 問題を多角的に検討し、分析的に考え、提案できる児童・生徒

歴史・文化

- ・帝釈峡遺跡群
大風呂洞窟、堂面洞窟等
- ・重要有形民俗文化財
豊松の信仰用具等
- ・文学
「黒い雨」
- ・歴史上の人物
西行法師、伊能忠敬等

歴史・文化と地域資源の有効活用

志・自己有用感の醸成

郷土愛＝郷土への感謝→貢献意欲

「育ててもらったことへの感謝」
「神石高原町で学んでよかった」
「神石高原町を活気づけさせたい」

- 地域との連携・連携型中高一貫教育
- 体験活動の充実
ボランティア活動、職場体験、小5体験活動等
- 道徳教育の充実

指標：「将来神石高原町に貢献したい」
児童生徒の割合

地域資源

- ・教育関連施設
油木高校、資料館
図書館、福祉・高齢者施設
- ・人材
古き良きものの伝承者
イノベーター
- ・町特産物
- ・観光、リゾートスポット

地域に貢献する資質・能力の土台

変化への対応力＝活用力→分析力

「時代、問題点を読み解くことができる」
「事象を分析できる」
※構成要素の分析：分類、比較、関連付け
B問題対応

創造力＝イノベーション→問題解決力

「どうすればこの問題が解決するか」
「これと何を組合せれば今までになかった
新しいものが生み出せるか」

基礎・基本の定着

- 授業改善（知識・活用）
言語活動の充実・ICT機器の活用
- 読書活動・NIE
- 国際理解・英語教育の充実
English Immersion Pro., 中学校暗唱大会
BBCとの国際交流

指標：全国学力・学習状況調査B問題

- 総合的な学習の時間（探究）
油木高校、行政等との連携
プロジェクト学習
- 児童会・生徒会活動の活性化（議論）
子供議会等

指標：広島県「基礎・基本」定着状況調査児童生徒質問紙調査
「課題発見・解決学習」に関する質問

思考の術の獲得

正解のない問題への最善解の追及

国際バカロレア資格

国際水準の能力の育成

21世紀型能力

生徒の学術性の高い課題への挑戦
地域での奉仕活動や様々な自主的活動による責任感や社会性
論理的思考力や表現力、探究心や学術的思考、異文化理解と寛容性

基礎力：言語スキル、数量スキル、情報スキル
思考力：問題解決・発見力、論理的・批判的・創造的思考力、メタ認知・
学び方の学び
実践力：自律的活動力、関係形成力、持続可能な社会をつくる力

神石高原町学校教育の基本理念「未来を拓く人と文化の創造」

- ①「神石高原町」という新しい「町づくり」への「未来」を託す教育
- ②新しい町づくりを担う人材の育成
- ③新しい町にふさわしい文化の創造

学校教育の目標

～創造性・郷土愛・変化に対応できる力の育成～

地域へ貢献できる人材の育成

油木高等学校

連携型中高一貫教育～共創の教育で町の未来を拓く生徒の育成～

教科連携・教科外連携・総合的な学習の時間・行事等連携

中学校

三和中・神石高原中

地域へ貢献できる人材の育成

神石高原町の自然・歴史・文化を知り、地域活動に参加する児童・生徒
問題を多角的に検討し、分析的に考え、提案できる児童・生徒

地域に貢献する資質・能力の土台創り

確かな
学力

豊かな
心

健やかな
体

郷土愛＝貢献意欲(感謝)
志・自己有用感

創造力＝問題解決力(探究)
正解のない問題への最善解の追及

変化への対応力＝分析力(B問題対応)
思考の術(すべ)の獲得

歴史・文化と地域
資源の有効活用

「地域と世界」「過去
と未来」を観通す
ハイブリッド教育

国際水準の能力
の育成

国際理解教育

郷土学習

NIE 教育

体験学習

読書活動

総合的な学習の時間

ICT 機器活用

信頼される学校づくり

小学校

神石小・油木小・豊松小
(神石高原中校区)

来見小・三和小
(三和中校区)

保育所・幼稚園

小中連携

家庭・地域との連携

平成30年度神石高原町学校教育の重点

未来を拓く人と文化の創造

- ・創造性と郷土愛の育成
- ・変化に対応できる力の育成

確かな学力の定着と向上

①小中学校学力向上プラン

- ・授業力向上～研修会と「課題発見・解決学習」の展開に係る訪問指導
- ・「学力フォローアップ校」事業
- ・新聞活用の促進(ノート・ワークブック・記者招聘等)

②読書活動の推進

- ・子ども読書の日や古典の日等を中心とした取組
- ・朝読, 家読等の充実
- ・学校図書館司書の配置と活用, 図書システムの運用

③各種学力調査分析結果の活用

- ・国及び町(小中学校全学年対象)の学力調査結果の活用による指導改善
- ・質問紙調査の活用による学習意欲の向上と指導の工夫改善

④国際理解教育の充実

- ・ALTの中学校拠点化及び活用
- ・町教委主催 English Immersion Pro. , 中学校暗唱大会の実施, 国際交流

豊かな心・健やかな体の育成

①「道徳の時間」の充実

- ・道徳教育推進協議会の充実
- ・「特別の教科 道徳」の充実

②生徒指導の充実

- ・いじめ防止基本方針やいじめ防止校内委員会の機能化
- ・不登校児童生徒等への取組の充実
- ・生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開～自己肯定感, 自己有用感～
- ・家庭及び関係機関との連携の促進

③食育の推進

- ・栄養教諭の活用及び地域特産の食材の使用

④体験活動の充実

- ・中2職場体験学習・小5合同宿泊体験学習の実施

⑤体力づくりの推進

- ・体力づくり改善計画の充実

信頼される学校

①学校評価の充実

- ・学校評価システムの充実
- ・学校関係者評価委員会の充実と学校の公開

②不祥事防止対策

- ・不祥事防止委員会の機能化・行動計画・服務研修の充実
- ・町不祥事防止対策協議会の取組

③人材育成

- ・OJTの充実

保(幼)小・小中連携・連携型中高一貫教育
家庭・地域との連携

学校教育の充実に向けて

1 確かな学力の定着と向上

(ア)基礎・基本の習得と活用

～個に応じたきめ細かな指導と協働的な学び～

(イ)ことばの教育の推進

(ウ)自ら学び、自ら考え、自ら判断し行動する力の育成

(エ)地域の自然・環境・文化の教材化

(オ)国際理解教育の推進

(カ)教育情報化の推進

2 豊かな心を育む教育

(ア)道徳教育の充実

(イ)生徒指導の充実

(ウ)キャリア教育の充実

(エ)体験活動の推進

3 健康教育・安全管理

(ア)体力・運動能力の向上

(イ)健康教育の充実

(ウ)学校安全の確保

4 特別支援教育の充実

(ア)個に応じた指導の充実

(イ)交流及び共同学習の推進

5 信頼される学校づくり

(ア)自律的学校経営の構築

(イ)積極的な情報発信と情報管理の徹底

(ウ)学校評価システムの確立

(エ)教職員の質の向上

(オ)保幼・小・中・高等学校の連携



学校改善及び授業改善の視点

1 確かな学力の定着と向上

(ア) 基礎・基本の習得と活用 ～個に応じたきめ細かな指導と協働的な学習～

● 重点目標	● 実践上の重点課題
学習者起点の主体的・協働的で深い学びを追及する中で、思考力・判断力・表現力等を育成する。	▲「学力フォローアップ校」事業の推進 (主体的な学びの追及) (発達段階に応じた指導の充実等) ▲「課題発見・解決学習」推進に向けての授業研究の充実。 ▲全校学力調査を実施し、児童生徒の学力課題を把握するとともに、データ分析をもとに個に応じた指導等の授業改善を継続する。 (国調査:小6, 中3 全国学力・学習調査) (町調査:小1～中3 標準学力調査)
授業と家庭学習の関連を図り、自分で学習する力を身に付けさせ、家庭学習の充実を図る。	▲「家庭学習の手引き」を配付するなどして意義や学び方を指導し、学習意欲の向上を図るとともに、学習状況や生活実態について家庭との連携を密にする。 (「ひろしま」学びのサイクルの実現, 三点固定の取組, 学習・生活実態調査の実施)

(イ) ことばの教育の推進

● 重点目標	● 実践上の重点課題
「聞く」「読む」「話す」「書く」技能を習得させ、「考える力」「感じる力」「表す力」を育成する。	▲教科等の指導において、情報収集、体験、観察、分析、考察、報告及び発表等について、その方法を指導する。 (総合的な学習の時間と教科との関連付け) ▲児童生徒が論述、議論等をする場を設定する。 (言語活動の充実)
児童生徒の主体的、意欲的な読書活動を推進する。	▲読書推進体制づくり、読書環境づくり、学校図書館の充実及び図書システム運用等効率的運営を図る。 (学校図書館司書の活用、朝読・家読の充実等) ▲子ども読書の日関連の取組の充実 ▲地域ボランティアの協力体制の一層の構築に努める。 (読み聞かせの拡充)

(ウ) 自ら学び、自ら考え、自ら判断し行動する力の育成

● 重点目標	● 実践上の重点課題
主体的・協働的に学ぶ力をつける。	▲全ての教員が各教科等において、子どもたち自ら学習課題を発見し、協働する中で、追究したり発見したりする喜びが味わえるような問題解決の学習を経験させる。 (各教科・領域等)
問題解決力の向上を図る指導を充実させる。	▲教師の教材解釈力、単元構成力と課題設定能力を高めるとともに、問題解決過程を重視した適切な指導と評価を実施する。 (授業スタイルの転換, 授業研究の充実)

学校改善及び授業改善の視点

(エ) 地域の自然・環境・文化の教材化

● 重点目標	● 実践上の重点課題
地域に対する子どもの認識を深める。	▲ 地域ボランティアや地域人材の協力を得るなどして、地域の自然・文化・史跡等について学ぶ機会を積極的に提供する。 (地域人材等教育資源の活用)
地域資源の教材化を図る。	▲ 郷土の自然や歴史等に関する資料の収集及び活用の工夫をする。 (社会科学習資料の活用、学校間の連携充実) (総合的な学習の時間や道徳の時間等における地域からの学び)

(オ) 国際理解教育の推進

● 重点目標	● 実践上の重点課題
外国語活動及び外国語教育を通して、コミュニケーション能力や表現力を育成する。	▲ 新小学校学習指導要領の移行期間に対応した指導による、4つの能力の育成を図る。 (小学校外国語教育中核教員研修) ▲ 小学校外国語教育を踏まえ、英語による活動の確保等、中学校における指導方法の工夫・改善を図る。 (指導方法の工夫改善)
外国語活動と外国語教育の充実	▲ 中学校外国語科スタートカリキュラムの活用と改善 ▲ CAN-DOリストの活用と改善 ▲ ALTの中学校拠点化と計画的な活用 ▲ 町教委主催の中学生全員参加の暗唱大会を充実させる。 ▲ 小学4年生のイングリッシュ・イマージョン・プロ及び中学生の海外研修実施 ▲ 英語検定受検への助成

(カ) 教育情報化の推進

● 重点目標	● 実践上の重点課題
児童生徒が情報や情報機器を主体的に選択し、情報を積極的に発信することができる基礎的な能力を養うとともに、情報モラルの育成に努める。	▲ 各教科及び総合的な学習の時間等におけるICT機器の活用など、児童生徒が情報機器に触れる機会を設定するとともに、情報の適切な選択活用や情報モラル・マナーについて指導する。 (授業でのコンピュータ活用)
ICT機器を活用した効果的な指導及び学校事務の効率化を図る。	▲ 指導効果を高めるコンピュータ、電子黒板等の活用方法等について研修等を充実させるとともに、情報の共有化を推進する。 (研修の充実、校内LAN、ICT機器の有効活用)

2 豊かな心を育む教育

(ア) 道徳教育の充実

● 重点目標	● 実践上の重点課題
組織的な推進体制を確立する。	▲ 学校教育全体を通じて、校長の方針のもと、推進教師を中心に、全教職員で推進する体制を整備する。 (全体計画、年間指導計画の充実と活用、教材開発、推進協議会との連携)
校内授業研や保護者参観等で道徳の時間を公開し、懇談会を持つ体制を確立する。	▲ 研究会等へ積極的に参加し、授業実践により校内へ還元するとともに、授業公開・懇談会を通して地域との連携を深める。 (地域教材の充実、「私たちの道徳」・地域人材の活用、奉仕・体験活動の実施、指導資料の充実)
道徳教育の成果を適切に評価する。	▲ 取組目標と成果目標を明確にするとともに、結果(児童生徒の変容)を日々の行動観察や道徳の授業等により評価し、指導の改善に生かす。 (指導と評価の一体化)
人権教育を推進する。	▲ 学校教育活動全体を通じ、三側面のバランスの取れた指導を展開する。 (全体計画や年間指導計画の作成)

(イ) 生徒指導の充実

● 重点目標	● 実践上の重点課題
組織的な生徒指導を推進する。	▲ 生徒指導規程をもとに、全教職員による一貫した指導を行うとともに、情報収集を積極的に行い、共有するとともに、取組を記録する。 (生徒指導主事を中心とした体制強化)
生徒指導の三機能をあらゆる教育活動に生かし、積極的生徒指導を推進する。 ・自己肯定感の育成 ・自律の育成 ・自己責任の明確化	▲ 「三点固定等生活の基礎基本となる指導」「社会性を身につける指導」「安心して学習できる学校づくり」「毅然とした指導」「一人一人を大切に指導」等を充実する。 (計画・実施・評価)
「いじめ防止基本方針」「いじめ防止校内委員会」を機能させ、いじめや不登校等へ適切に対応する。 ・未然防止 ・早期発見 ・早期解決	▲ 子どもの変化の早期発見 ▲ スクールカウンセラー等の助言を踏まえ、適切な時期に適切な指導・支援をする。 ▲ 保幼小中間、家庭・関係機関と組織的に連携する。 ▲ 重大事案は積極的に警察に相談 (いじめ対策ハンドブックの活用等)
教育相談体制を確立する。	▲ スクールカウンセラーとの連携を図るとともに、全ての教職員がカウンセリングマインドを持った指導を行う。(研修、定例的な情報交換)
開かれた学校づくりを推進する。	▲ 生徒指導の方針や目標を児童生徒・保護者及び地域住民に説明するとともに、結果を公表する。(学校だより、HP、入学説明会、地域懇談会、学級懇談会、地域行事等)

学校改善及び授業改善の視点

(ウ) キャリア教育の充実

● 重点目標	● 実践上の重点課題
キャリア教育の推進体制を確立するとともに、PDCAサイクルに従って適切にマネジメントする。	▲全職員がキャリア教育の意義と実践への計画、方法等を十分理解する。 ▲実態に応じて、具体的で実行可能な目標を設定する。(学校経営方針への位置付け)
キャリア発達にかかわる諸能力を育成する。 人間関係形成・社会形成能力 自己理解・自己管理能力 課題対応能力 キャリアプランニング能力	▲各発達段階に応じた「能力・態度」の育成を軸としたプログラムを策定する。 ▲教科指導等との関連を図った指導計画のもとに適切な実施及び評価を行う。 (キャリア教育全体計画、年間指導計画、評価計画、キャリアノートの活用、小・中学校連携等) ▲中2職場体験学習の充実

(エ) 体験活動の推進

● 重点目標	● 実践上の重点課題
人を思いやる心や自立心、社会性を育む。	▲積極的に人と触れ合う活動の場を設定し、ねらいに基づく実践・評価を行う。 (指導と評価の一体化等)
自然体験活動や社会奉仕活動など豊かな体験活動を充実させる。	▲町内全小学校5年生による宿泊体験学習、中2職場体験学習の充実。 ▲体験活動等を教育活動に適切に位置づけ、事前・事後の指導など、周到な準備と計画のもとに実施する。 (奉仕・体験活動の充実等)

3 健康教育・安全管理

(ア) 体力・運動能力の向上

● 重点目標	● 実践上の重点課題
運動に対する興味・関心・意欲を高める。	▲外遊びの紹介や奨励、体育朝会等の内容の多様化を図るとともに、自らの課題を解決する等、体育の授業を工夫する。 (意図的・計画的な場の設定)
体力づくり推進リーダーを中心に、体力向上の効果をより一層高める。	▲子どもの実態に合った体力向上の年間指導計画の作成、取組の充実を図る。 (体力テストの実施・分析・取組及び改善等)
部活動の指導者確保等の充実を図る。	▲学校支援ボランティアの協力や社会体育との連携を図る。 (条件整備)

学校改善及び授業改善の視点

(イ) 健康教育の充実

● 重点目標	● 実践上の重点課題
基本的な生活習慣を確立する。	▲「三点固定の指導」を展開する。 (学校保健計画策定、保護者との連携体制の充実、う歯の減少・処置率の上昇)
望ましい食習慣の形成と食文化の向上を図る。	▲栄養教諭や栄養士と適宜連携し、学校教育活動全体で組織的に取り組む。 また、食育担当者を中心に指導計画を作成し、計画的、系統的に推進する。 (食育推進体制の整備)
学校給食の安全・衛生管理の徹底を図る。	▲食中毒・食物アレルギー等への危機管理体制を確立する。 (安全管理マニュアル・学校給食における食物アレルギー対応実施要項に基づく)

(ウ) 学校安全の確保

● 重点目標	● 実践上の重点課題
危機管理体制を確立する。	▲「危機管理対応マニュアル」を教職員に周知徹底するとともに、具体的場面を想定した研修の実施等により、検証・改善を図る。(危機管理対応マニュアルの周知徹底等) ▲「緊急メール送信」システムの活用
学校の安全を確保する。	▲学校内の安全について常に点検し、改善を図る。避難訓練等を継続的に実施する。 (学校安全計画策定、安全管理、防災教育、安全教育)
登下校の安全を確保する。	▲安全教室の実施や地域との連携による挨拶運動等を推進する。(連携体制の充実) ▲児童・生徒に危険箇所を認識させるとともに、安全対策を講じる。(通学路のマップづくり)

4 特別支援教育の充実

(ア) 個に応じた指導の充実

● 重点目標	● 実践上の重点課題
能力や可能性を最大限に伸ばし、社会参加と自立の基礎となる「生きる力」を培う。	▲学校経営計画に特別支援教育を位置づけるとともに、個別の指導計画及び教育支援計画を作成・活用する。 (適切な教育課程の編成・実施) (評価、授業研究の充実)
特別支援教育コーディネーターを中心に、校内委員会を機能させる。 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて、多様で柔軟な支援をする。	▲通常学級におけるLD、ADHD等障害に対する理解と対応についての研修及び組織的な支援をする。(個別指導計画・支援計画の作成・活用) (研修の充実、学習支援員の配置、巡回相談員・専門性の高い職員等の招聘、支援体制の整備) ▲日常的に保護者と密接な連携を図る。 (目標・指導・評価の共有化、記録の活用等)

学校改善及び授業改善の視点

(イ) 交流及び共同学習の推進

● 重点目標	● 実践上の重点課題
経験を広めて積極的な態度を養い、社会性や豊かな人間性を育む。	▲ 交流及び共同学習の意義、方法及び具体的な事例等について研修を深め、より効果的な指導を工夫する。(研修の充実等)
交流及び協働学習の意義・目的に沿った活動内容等の充実を図る。	▲ 関係校等が相互に十分連携を行い、交流及び協働学習の内容や方法を検討する。(連携体制の充実)

5 信頼される学校づくり

(ア) 自律的学校経営の構築

● 重点目標	● 実践上の重点課題
校長は、リーダーシップを発揮し、学校の「共有ビジョン」を形成するとともに、組織マネジメントを機能させる。	▲ 校長は、自らの学校の経営者としての自覚を強め、ビジョンや戦略を明確にし、経営計画を設定し、それを実施運営する。 (リーダーシップ機能とマネジメント機能)
特色ある学校づくりを計画的に推進する。	▲ 各校の強みを生かし、課題の解決に取り組む。(教科指導、小学校外国語活動、体力向上、ことばの教育、心の教育等)
熟議を通して校内運営の機動性・効率性を高める。	▲ 熟議により教育の質を高める。 ▲ 主任・主事の任務を明確にし、マネジメント能力が発揮できるシステムづくりをする。 (運営組織の見直し)

(イ) 積極的な情報発信と情報管理の徹底

● 重点目標	● 実践上の重点課題
最新の教育情報を児童生徒、保護者及び地域に提供する。	▲ 学校HPの定期的な更新に努め、掲載内容の整理・充実を図る。(学校HPの充実)
情報管理体制を確立する。	▲ 公文書の收受・発行・保管、及び個人情報の管理等を適切に行う。(個人情報の保護)

(ウ) 学校評価システムの確立

● 重点目標	● 実践上の重点課題
学校評価システムの機能を向上させる。	▲ 確かなビジョンのもと、取組目標と成果目標の関係を明確にして実施するとともに、根拠を持って達成状況を計画的に評価し、学校運営の改善に努める。 (学校評価項目の精選・重点化・共有・連鎖等)

学校改善及び授業改善の視点

学校関係者評価を学校経営に反映させる。

▲学校関係者評価委員会を充実するとともに、保護者・地域の意見を効果的に取り入れる。
(学校評議員の活用・学校関係者評価委員会の充実)

授業や学校行事の公開を進め、内外ともに「開かれた学校」をつくることで、支援者を増やす。

▲①学校施設を開く ②教育活動を開く
③学校運営を開く ④教職員の意識を開く

(エ)教職員の質の向上

● 重点目標

● 実践上の重点課題

教職員一人一人の公務員としての資質の向上を図る。

▲公務員としての服務規律の確保等，法令等遵守に取り組む。教職員としての使命感や教育改革への意識改革を図る。
(町不祥事防止対策協議会，行動計画・不祥事防止委員会の機能化，研修の充実等)

人材育成の充実を図る。

- ・ OJT をベースに
- ・ 各種研修と関連付けて
- ・ ジョブローテーション

▲人材育成計画により，計画的に取り組む。
▲専門研修，先進校視察等に積極的に参加させ，人材育成を図る。
(県の指定研修，県教育センター研修)

校内研修を充実させる。

▲教務主任及び研究主任等の機能化を図り，校内研修をマネジメントサイクルで実施する。校外研修の内容を確実に還元することで校内研修の活性化を図る。
(研修内容の積み上げ，点→線→面へ等)

自主研修を支援する。

▲教育委員会は，各教科等の教育内容や指導方法等の充実を図るため，町教育研究会を支援する。自主研究グループによる自主的・自発的研修を奨励・支援する。
(運営経費の補助，研究活動の支援等)

(オ)保幼・小・中・高等学校の連携

● 重点目標

● 実践上の重点課題

「地域が求める子ども像」の実現をめざし，保幼・小中連携・連携型中高一貫教育を推進する。

▲育てたい子ども像の共有化を図る。
(地域に貢献する人材の育成)
▲乗り入れ授業，実践交流，合同研修等を充実させ，学校間及び校種間の指導方針，指導内容及び指導方法の共有化を図る。
▲保幼小連携体制を確立する。

小中高の発達段階に応じた基礎学力を確実に定着させる。

▲町教育研究会と学校教育実践とをリンクさせ，教科別に指導方法等の研究を行う。
(町教育研究会の活動の充実)

